



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **45**

2022. 8.

信州 ESD
コンソーシアム
事務局

山ノ内町ESD研修会／社会主事講習(ESD)／信州ESDコンソーシアム総会

8月5日 山ノ内町教職員ESD研修が実施されました

令和4年度山ノ内町教職員ESD研修会(主催：山ノ内町教育委員会、共催：信州ESDコンソーシアム)が志賀高原で開催され、水谷・渡辺(ESDコンソーシアムコーディネーター)が講師を務めた。参加者は山ノ内町内の教職員など18名でした。午前は前日の豪雨と打って変わった晴天となり、涼しい高原での現地散策研修で、木戸池から蓮池8月6日と8日、19日に長野・新潟社会主事講習でESD特論&演習がおこなわれました。高層湿原や天然カラマツ、風穴の奥のヒカリゴケなど多様で興味深い自然を観察した。普段の教室での仕事から解放的な大自然の中で皆さんにこやかに談笑しながら終始楽しく自然を学ぶことができた。



午後からは、蓮池の98会館で、ESDの意義・成果と課題についての講演の後、「山ノ内町型ESDの構築に向けて」と題したワークショップをおこなった。2班に分かれて各自の持ち寄ったESD授業実践や関心を基に、実践におけるテーマや学習材、重視する構成概念や資質・能力を確認し、現状の強み・弱みや将来目指すべき方向性について議論することができた。(水谷・渡辺)

8月6日と8日、19日に長野・新潟社会主事講習でESD特論&演習がおこなわれました

新潟・長野両県でおこなわれている主事講習が今年は信州大学教育学部で開催され、その内容の一部にESDが組み込まれ、コンソーシアムのコーディネーター4名が担当しました。

安達はメンチメーターでESDの認知度を問いかけ、SDGsは様々な企業や団体が活用し、90%と高いがESDは50%以下であった。SDGsの17目標をダイヤモンドランキングすることで価値観が人によって異なることなどの課題を指摘した。ESDとは、これからの社会が変わればスキルが変わり「OK! Google」では分からない内容を探究するための基盤となる理念であり、地域の未来のために必要とされると紹介。そして、ユネスコスクールはESD拠点校であり信州ESDコンソーシアムはユネスコスクールの普及・支援、発表会を近年はオンラインで実施していると紹介した。

渡辺は、環境教育を中心にESDやSDGsとの関連を紹介した。環境とは温度など単なる周りではなく、生き物の育てるという基本的な理念を解説し、ネパールやチベットなどでの自然と人の生活を具体例として紹介した。また、環境教育の手法として、体験と知識とから将来予測ができ各自の願望との相違から成すべき行動が導かれるという「環境タイムライン」試行した。

西は、地域文化資産を活用した実践例やICTを活用した複数の学問領域に関わる地域文化資産の発信事例を紹介して、その可能性についてディスカッションした。その後、学部内と周辺に散在する地域文化資産(明治天皇行幸碑・皇太子行啓碑・学内石碑公園・附属小学校門柱等)を実際に視察して、各文化資産の価値や来歴について現地で講義した。

8日は志賀高原ユネスコエコパークにおいて、水谷が町担当課、



地元講師らと協力して、核心地域、緩衝地域、移行地域それぞれの地域資源を巡る現地巡検を行い、これらを活かした地域活性化と社会教育との関わりについて考えた。

19日の社会教育演習では、ESDのまとめとして「巡検を行った地域(善光寺地域, 志賀高原ユネスコエコパーク)もしくは自らの活動地域の地域資源を活かした持続可能な社会の実現に向けた社会教育施設(公民館等)でのESD活動を立案する」というテーマのもとグループに分かれて講座づくりの演習を行った。受講生の関心や課題意識から、研修の地域をテーマにした志賀高原・善光寺の2チームと、各自の地域をテーマにした3チーム、各5,6名の5チームに分かれてSDGsも意識したプログラムにチャレンジした。これまでの講習内容を踏まえ、講座設定の理由・背景にESDやSDGsの視点を組み込みながら熱心に議論した。一日かけて立案された各講座のタイトルは以下の通りである。

- ・黒姫物語に学ぶ地域の歴史
- ・善光寺のあるまちづくり～善光寺から地域を考えよう～
- ・竹起こしで町おこし～竹街(待)っく天国Woo! Bamboo!!!～
- ・アイシテル妻有
- ・SDGs そうだ! ダッシュ村だ! 元気な祭りだ! 最高だ!

最後に各チームの発表と質疑をおこないプログラムの改良にいかして演習の仕上げとした。

(安達・水谷・西・渡辺)

8月20日 信州ESDコンソーシアムの総会が開催されました

13時より14時半まで各種協議と各参加団体の実践報告がオンラインでおこなわれた。参加者は30名でした。最初に、村松会長が出張のためビデオで、信州におけるESDの着実な進展と一層の発展を期待するメッセージが送られた。次いで西運営委員長が議長に指名され進行をおこなった。令和3年度の事業報告及び4年度の事業計画が事前資料および成果報告書2021に基づいて説明され、質疑の後承認された。以下、各団体からの報告で、コロナの困難な中でもESDの学びが着実に進んでいることが共有できた貴重な機会となった。

● **ユネスコアジア文化センター(ACCU)** 主な活動として、ユネスコスクール活動指導案と実践報告募集のお知らせと文科省の学校、行政、企業、市民の協同参加によるユネスコ未来共創プラットフォーム(事務局運営を受託)の始動についての紹介があった。

● **環境省EPO中部&中部ESD活動推進センター** 中部7県のESD・環境活動の支援及び主催イベント学びあいの場について紹介があり、今年度もジオパークを活用したESDダイアログが福井県勝山市で開催され本コンソーシアムも協力します。

● **一社長野県環境保全協会** 信州環境カレッジ(地域講座、学校講座)や長野県と長野市の温暖化対策推進センターの運営を担い、省エネや脱炭素などの環境資料を提供している。また、今年も信州環境フェア実行委員に参加している。

● **諏訪ユネスコ協会** 5月総会にて企業からの講演、国際理解・異文化理解の交流会を実行し、プロジェクト未来遺産申請中で、諏訪湖アダプトプログラム(諏訪湖清掃、年3回)に参加している。ユネスコ通信を発行しているのでご覧いただきたい、と。

● **直富商事** 021年1月長野県SDGs推進企業に認定さ



れ、社内勉強会を毎月開催している。小学生対象の企業見学受け入れやリモート学習・動画のYouTube配信し、高校生の企業訪問受け入れ等の紹介があった。

- 長野県PTA連合会** ホームページ紹介で、長野県531校15万人の児童生徒のため活動推進している。現在、子どもたちのSDGsの取り組みと保護者の学び促進のための研修会などをおこない、PTAの各事業計画をSDGsの観点で整理、検討している。活動は座談会や動画配信、県PTA新聞、広報誌等でおこない、長野県SDGs推進企業にも登録している。子どもの負けないようESD活動を推進する。今年度より参加いただきました、今後ともよろしくお願いたします。
- 長野県NPOセンター** ナガクルを用いてSDGsコネクト信州を運営して若者の学びのサポート等をおこなっている。
- 附属幼稚園** 3～5歳を対象とした資源回収、分別、再利用の遊びを通したりサイクルなどの学びを紹介。
- 山ノ内町南小学校** 5年生は志賀高原学習ほか全学年で地域探検をして、りんご、ゴミ、障がい者支援など様々なテーマでの学習の紹介があった。
- 山ノ内町西小学校** 低学年はヒツジなど飼育体験のほかりんご、稲作など、6年生は無農薬の大豆づくり、地域特産の前坂大根などの実践と学習を通して地域との交流の紹介。
- 山ノ内町東小学校** 志賀高原、温泉など地域性を活かしながら、栽培活動、飼育活動、伝統学習、雪代米栽培、自然学習、ABもりの植樹活動のほか、職員のESD研修・勉強会等の紹介し、故郷を大事にできる子を育てたい。
- 信里小** グラウンドデザインの「信里を語る子ども」を基軸とした自然とのふれあいで育っている子どもたちであり、過疎もあるが、りんご栽培等を通じた自然と人の関わりについての学習活動を紹介。
- 附属松本中学校** 教育目標「たくましく心豊かな地球市民」を基軸とした生徒会のESD活動やアルミ回収、梅の栽培・手入れ・販売、菊づくりの再開、地球市民集会以外の異学年グループでのディスカッションなどの実践について紹介があった。
- 附属特別支援学校** 知的障がいの児童生徒の生き生きとした地域市民としての関わりを促す活動をしており、地域清掃などで交流したり、職場実習等についての紹介をいただいた。
- 高山村高山中学校** ユネスコエコパーク志賀高原の学習をして、緩衝地域、移行地域の違いについてなど学び、ABもりも現地学習するなど紹介であった
- 文化学園長野中学高等学校** ユネスコスクール(6年目)としての活動で、当事者を意識したホールスクールとして学校全体での体制強化(生徒、教員、保護者、地域)へ注力し、アートマイル国際協働学習プログラム(インドの学校との協働)、Englishキャンプ(途上国、カンボジアとの交流)、中学生徒会による長野盲学校との連携、海を守るために排水を考え廃油石鹸づくりの活動、ユネスコスクールニュースの発行等の紹介があった。
- 上田西高等学校** ユネスコスクールキャンディデート校として生徒会主導の国際交流や上田西学びプロジェクト(課題解決型講座;地域の方などを講師として招待)、クルクル市などの文化祭での取り組み等についての紹介があった。

以上、いずれの報告も、ESD活動の参考になるもので、貴重な機会でした。さらに、意見交換がおこなわれ、文化学園の長田先生より、今年計画案にあったように、コロナ下で国際交流にどうむずびつけるのかと困難を極めている。交流先校を探すのが非常に難しく、どのように探したらよいのか、と質問があった。ACCUの藤本氏より、学校間交流を推進しており、学校間のマッチングの手伝いをしている。公式サイトにて交流希望の募集を行っているの、そこから希望内容などお申込みいただきたい、との回答があった。次いで、山ノ内東小学校の大木先生より、「ABIMORIについて高山中からお話があったので、具体的な活動について紹介したい。山ノ内中学校は植樹活動の素晴らしさを広げる活動をしているので、機会があれば一緒に植樹についての学習や広げる活動をしていきたい。また連絡をいただきたい。」と提案があり、高山中学校の原田先生は、「ありがとうございました、生徒と相談しながら進めていきたいのでよろしくお願いたします。」と述べられました。こうした交流の機会は有益だと確認できた総会でした。次回の、活動報告会&交流会(2月3、4日)も大いに期待できるでしょう、ご予定ください。

